

高病原性鳥インフルエンザ発生に係る疫学調査について

平成30年1月に香川県で発生した高病原性鳥インフルエンザに係る疫学検討会の概要が公表されました

1 現地調査等の概要

- ・発生農場敷地のほぼ中央にカモ類等が飛来するため池があり、発生鶏舎はこのため池に最も近い場所に位置していた
- ・発生農場では、鶏舎壁の破損部の補修など野生動物侵入防止対策や専用長靴の履き替えなど衛生管理対策が実施されていた
- ・現地調査時、発生鶏舎内にネズミのものと思われる小動物の糞が確認された

2 環境材料等の検査結果

- ・発生鶏舎以外の鶏舎飼養鶏、発生鶏舎の敷料、発生鶏舎近くのため池の水や野鳥の糞等計240 検体全てウイルス検査等陰性

3 分離ウイルスの特徴

- ・遺伝子検査の結果、島根県（昨年11月）と東京都（本年1月）で発見された死亡野鳥から検出されたウイルスと、香川県の発生農場で検出されたウイルスは明確に区別された

高病原性鳥インフルエンザ予防対策の重要ポイント

1 カモ類などの渡り鳥

日本に飛来した後も国内を移動することから、厳重な警戒を継続する必要がある

2 池等の水辺対策

周辺に池等の水辺がある農場は、家きん舎周辺にウイルスが存在するかもしれないという意識を持って、厳格な衛生管理を講じていくことが必要

3 毎日の健康観察

死亡羽数の増加は、主な臨床所見であることから、毎日の健康観察による早期発見・早期通報が重要

鶏が複数死亡するなど異常がありましたら、当所まで連絡をお願いします